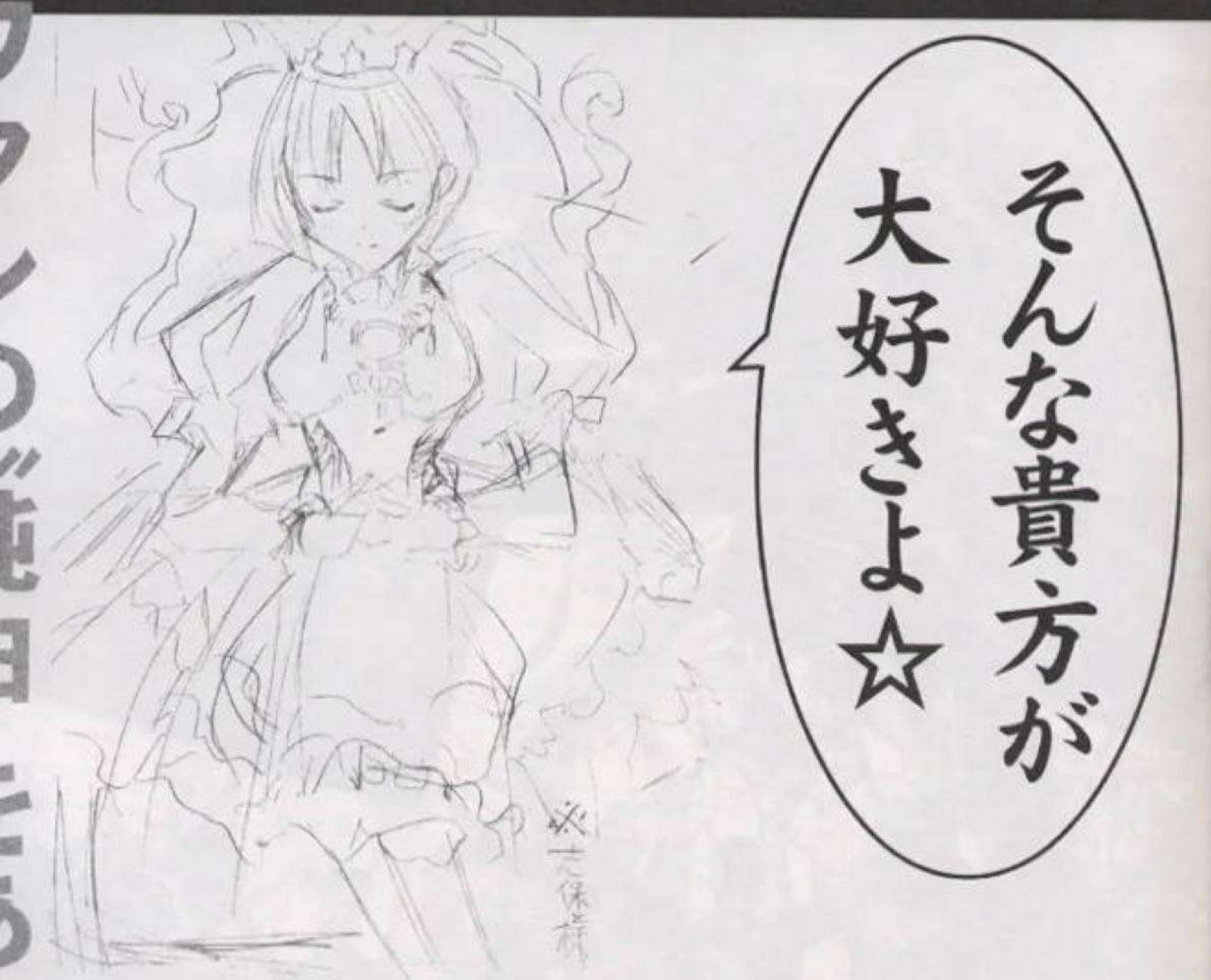
HarthNir
since 1999
Anti Christ
Trickster
ADULT
ONLY

HarthNir
Anti-Christ
Trickster
ADULT
ONLY

AntiChristTrickSter AntiChristTrickSter AntiChris
AntiChristTrickSter AntiChristTrickSter AntiChrist
AntiChristTrickSter AntiChristTrickSter AntiChristTr
AntiChristTrickSter Antichristtrickster AntiChrist

アンチキリストの流儀

7
24
25
26
33
48
55
56
58
59



今回のお品書き～AntiChristTrickSter

■まじ☆アン漫画『愛の白虫花』⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒
■あいさつ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

おーい
おーい スティー?
いない
スティー あああああ ぢゃん???
あいつ… ひょっとしてまた…!
ちぶる ちぶる 花ゆっ娘シスターズ
愛の食蛾花
みさくらなんこ

はあ
はあ
姉さん……
姉さん 好き……
リアニ
私もだよ……
なぐり
……はう

……あっ……
ママ…
そんなに押しつけちゃ……やだあ……
姉さんのような女で…
ん、姉さんっ ママできない
出したい、……射精したいの、
ぐしゅ
ぐしゅ
ぐしゅ
ぐしゅ

……んっ
ビクッビクッ
きっ……来たあ、精液……
はあああっ♪
……
ドピュ
ドピュ
ドピュ
うああっ♪ああっ♪
せっ、せーしっ♪
おおおお

ビクッ

ビクッ

キーやっ…リッリアー…

だっ…出しすぎ!!せ、せーし、がけすぎだよう、!

ブル

ブル

…ほあああ…あ♡

…はあ

はあ

ごめん…私…その…タマってて…

……

…リマニ

また…するの、いつもの…

……
ミ…ミ…ミ…
ミ…ミ…ミ…
ミ…ミ…ミ…

は…
はは
はは
は…
は…
は…

ぐちゅ
ぐちゅ
う…うんっ きもちいいっ いいのお
姉さんのおまんこくちゅくちゅして…
はっ!! はうう
はあっ
ぐぢゅ
ぐぢゅ
…んくっ も…きう
!!!
!!!?…

……ねっ

姉さんッ!! きたッ!!

せーしきたっ!! 出るっでちゃうよ

ふあああああ あっ 熱いよおおおっ!!!

……姉さん 私まだ…

私も…… もっと欲しい…

は、
はあ
…んはあ、
はっ
はっ
—とんだ好き者だな
この葉七ちゃん達あ
自分から進んで
「奴隷にして下さ
い」と
来たもんだ
姉妹ってド変態だな

その上前も後ろも外なりの上物…もラニリ♥
美味しそう
…もっとお…おちんぽしゃぶらせてぇ…！
ふあぁっ
あっいいっ顔ぶっかけいいっ♥

あっ…リアンすごいっ
んおおおっ
おっおしりっ
おしりっ
ケッ…ケツの穴もっといじめてえ!!
んはっ汁…おちんちん汁だあ
こんなに出してくれるなんて嬉しすぎるよぅ

あっ
リアニッ
リアニ、マジエロすぎるっ
ビュー
ビュー
そんなの見せられたら私も…私もエッチになっちゃうっ
…
うおおッ
ドキ
ドキ
ドキ

ヒュモモッ!!
おっ
んあ
んあ…姉さんも…ねえさんもエッチいよう!!
ズル
ズル
リアンも射精するぅ
……分は、はしっ
を、……すごいの来る……
あっ!んあんっ
ぐひっ
ひっひあ
ちゅぷ
ちゅぷ
ふるぶるぶる
姉さあん一緒にネ
んかっ
……

ジュプ
ジュプ
ジュプ
ジュプ
ずずずっ
ずずず

「『ラブひな』って、なんかいいよね」??
「なんかいいよね」……?????????
「なんか」??????????????

あ、はじめまこんにちはです、みさくらなんこつです〜。
「まじかる☆アンティークってなんかいいよね!!!」!!!!?
……イヤー、ガッチリはまっちゃいました、「まじ☆アン」!
どうですか? もう惚れました? こいはおすすめですよう〜
ああ〜もうたまらない、こみパに続くパラメータ上げゲー!!
ん〜自分バランスのいいパラメータ上げゲームって大好きなんです
ついついイベントこなすの忘れて集中しちゃう〜(笑)
根になって、みとり攻略以外は骨董品売り買いしなくても
クリアできるってのに気づいたときゃ「え〜っ!!」
とか思いましたが、よく考えりゃ
「クリアは簡単だけどいざやり込もうと思うと
底が見えにくい」って言う作りになってるわけで、う〜いい感じっ
(まだ総売上4千万円台です〜うぐう……
まわりのやり込み、凄すぎてついていけないのが悔しい〜!)。

キャラもみんな可愛いしね〜
結花ちゃんのしゃべりとかスフィーの「くいしんぼ」っぷりとか
なつみちゃんのダルさ加減(笑)とか……
これでもかって位のほのぼの具合がとっても心地よいのです、
もうエロシーンが余計に感じられるくらい(笑)
いや、あった方がもちろんいいですけどね〜しべルゥハチミツブレイ〜☆

ということで漫画描いてみました〜
……キャラ、あんまり似なかった気もしますが(笑)
まあ、いつものおちんちん漫画なわけで
ご笑覧いただければ超幸いですです☆でははいきってどうぞ〜!

00・07/31 みさくらなんこつ(ハースニール)

■柏木次女いきなり挑発パンツ見せ～
この娘がおいちゃんとラブラブです。

■つかもとは甘い物が大好きな
のだ～
ハースニールは
坂本印刷とニモ印刷も応援します。

衆人環視で
大コーフンの
いくみちゃん
は…
ドキッ
ドキッ!!
ドキッ!
み…見えちゃう、
見えちゃうよおお!!
あぁん、
あくみちゃうう!!!
フルフル

■つかもとは
足であるのが好きなのです……
ってホームページの絵も含めて
マジで千鈔ファンに狙われそう。

■なつみはキャラとしても
かなりアリですの～
シナリオは「まじ☆アン」の中で
一番面白かったかな。

ビクッ
ビクッ
ビクッ

■あがりちゃん、立て！
立ってぼけるんだ！！
視線の先にいるのは志保様です。
それ以上言うことはありません。

AntiChrist TrickSter

■おたかなのひさこぞ～☆
おたかなのパンツ～☆
第一銀魂害者萌え。

■前に使った千歳小説用うつ。
は、激しい魂の鼓動を感じるぜ！
……やりすぎかも（笑）

ああああ
ああああ
ああああ

も、もう脳ミ!!
新刊に
新刊にかけちゃうぅ!!
はあっ!!
はっ
はぁはぁ
うはあああああ
しゅっ
しゅっ
さぁ、
おおっ
射精る
射精るぅぅ

千鶴愛欲散華
あるいは
赤ちゃん千鶴の大冒険☆

write：武藤礼恵

「柏木千鶴を社会的に抹殺させよ」という依頼を受けた俺は、在宅を組ってレイプすることにした。それはいつもの「始末」であった。

柏木家に侵入するのに困難はなかった。セキュリティは大きい家の割に無かった。後は家の中を探るだけだ。千鶴は在宅しているのは間違いない。

仏間の前で俺は確かめた……いるぞ。

閉じられたふすまから女の息吹が感じられる。空気からは女の匂いが漂ってくる。俺はふすまを開けた。

そこは座敷牢だった。俺は度肝を抜かれた。

そして、そこにひとりでいる美しい女。

柏木千鶴――千鶴の座敷牢からは、色々な匂いが混ざり合った性臭を強すようなものが漂っている。

「うまっ、うまっ」

檻の中にいる千鶴の声を聞いて俺は驚いた。千鶴は赤ん坊――それも重度の幼児退行――なのだ。

「あーあーあー……たーたーたぁ」

こちらの方へと顔が動く。俺の姿は見えているのだ。それどころか、こいつはこっちに近づいてきている。

目に見かっているほ乳瓶には管がつながっている。管は千鶴の股に置いてある棒状のものにつながる。

コンプレッサーだ。それは千鶴の乳首を吸い上げている。吸い上げた母乳は千鶴の口へ……それを口にして喜んでいるのだ。千鶴はコンプレッサーの管を咥ぶ。それは当然肥大化した乳首を刺激することになる。

「あぶぶぅ」

そうして、千鶴は母乳を飲んでいる。自分の母乳を。

異様な光景だ。自分の母乳を搾り、それを啜る女。

「あうあうあうあうっー あぁぶぶぶぅっっー」

興奮している。紅潮した表情。身体の動きを見れば分かる。自分の母乳を啜って興奮するキチガイだ。

俺は千鶴に近づく。その距離をもっと見たい、そしてその様子をカメラに収めなくては……そう思いながら近づいていった。

汗と小便と汗の混じり合った口せかえるような性臭。どうしてもその臭いに興奮が抑えられなかった。

「あ……たぁーたぁーたぁー」

千鶴は近づいてきた。目の前で千鶴はほ乳瓶の母乳を啜ってみせる。挑発しているのか？

次の行動は本当に挑発だった。

母乳を吸い出す管を外して、こいつは乳首を露出させ、ぎゅっと絞って見せたのだ。もちろん、絞り立ての母乳が飛び散っていく。

下半身がギチギチと音を立てているのを初めて知った。こんな景色を見て、我慢はできなくなっていた。

俺は千鶴の股に座った。

すぐに千鶴は甘えてきた。きっと家族には相手にされていないのだろう。こうして幼児退行している間は。

千鶴の身体に触る。ねっとりとした汗、その気化熱でとても冷たく感じる。

「きゃっきゃっきゃっきゃ」

喜んでいる。こんな変態なことで喜んでいていいのか……かなり可愛そうになってきた。だが、手の中にあるデジカメが、入り口に置いてあるDVの機材が、役割を思い出させる。

取りあえず、千鶴の写真を何枚か取る。薄暗いため、フラッシュは必要だった。それが終わって機材とDVの用意をして、俺は千鶴を「始末」し始めた。

ファインダーを覗くと、また新しい発見があった。

それは千鶴のお口つぶ。

この女はいい年をしてお口つをしている。いや、させられているのだろう。「喰れた」女というのは本当に可愛そうだな、そう思いながらも俺の下半身はさらに硬さを増してくる。

――固定だ。取りあえず一発ヤるか。

俺はその場で千鶴を横たえにした。千鶴は背を向えながら、こっちを見つめていた。空いている片手は相変わらず乳首をいじり回して、母乳を絞り出している。

こんなキチガイとヤるというのは勇気がいるものだが、本気でやすぐ千鶴の股にガーメンをぶちまけたいと思っていたのだ。

こんなに可愛いキチガイなら。

俺は千鶴を抱き寄せて、脇の下から手を回して乳房をこね、乳首をつまむ。

「ひぅっ！　あぅっ！　ばぶっ！」

――ぴゅるっ、ぴゅるるっ！　ぴゅるるるっ！

意外に母乳は溜まっている。恐らく千鶴が搾乳器を外してしまうのだろう。だから、いつまで経っても母乳が絞り切れていないわけだ。

それにしても、他人の手のせいか、あるいは幼児退行した結果なのか、千鶴は快感に打ちのめされるように震しがっている。よがっている。

俺はもう片方の乳首からこのキチガイの甘美を味わることにした。母乳の味など知らないが、今から知っておくのも悪いことではない。

「ひやぁっ！　あぁぶぶぅぅっっ！　あぅっ！　あぅっ！　あぅっ！　はぶぅぅぅっっ！」

甘い。酸く甘いものだ。しかし、なんだか変ぺする上に懐かしい気分になる。こんなものを毎日喰っていたらおかしくなっても当然かも知れない。

「ひぅっ！　ひぅぅぅっ！　あぶぶぶぅぅぅっ！」

俺は名残惜しいとばかりに、千鶴の母乳に勃起した乳首を、口に含んでは放し、含んでは放しを繰り返し、最後に母乳を吸って口に入れた。

そうして千鶴の顔を見ると、真っ赤に顔を染め、気持ちよさのせいだろう、泣きべそさえかいている。鼻を啜りながら千鶴は気持ちよさに陶酔っているのだ。

よっぽど気持ちよかったのだろう。俺の股にすがりついて喜っている。そして、より強い快楽を強要しているように見えたのだ。

だから、俺はそのまま下半身に指を這わせる。そ

ホ、まるで世界の重力が変化したかのように。

「ぬ――――――

ちの。　自分たちとそっくりだ。　それなのに、コントロールを放棄されてしまったかのように。

十蘭もそれを察し、警戒、緊張した面持ちでじっとせっせと作業をしている。　それぞれ、ゴーグルを装着。

ホスピ——制御室。

ホスピ——それ。

御覧の通り、当然ながらあのコントロールが、電口だけでなく、ホストコンピュータまで乗っ取られている。　ホストは、ほぼ全滅。

ホスピ、ほぼ全滅。

ホスピ——制御室。

ホスピ——それ。

ホスピ——ホスピ。

ホスピ——ホスピ。

ホスピ——ホスピ

あっ
あうっ！
あうっ！
あうっ！
あうっ！
あうっ!!!

――大人しくなったらつまらん。唾を入れるか……。

そうして、さらに千鶴のペニスを舐ることにした。

はっきり言えばその手の趣味は無い。それでも、俺はこうしたかったのだ。いい女のチンポだから。

臭さも、味も、プライドもかなぐり捨てて、千鶴のペニスを口に含むことにした。ただ、いきなりはさすがに何だと思ったので舌で舐ることから始める。

「あ……あうん……あはぁ……はぁ、や、や、やあん。き、気持ちが……いい」

驚いた。柏木千鶴は意識を取り戻し始めている。

だが、まだはっきりしているわけでは無いようだ。

俺は、そのまま一気に口に含んでしまうことにした。見つたより酸いものじゃないと思えたからだ。

「あっ！　あああああっ！　ああっ！　あ、ああ、な、な、何……き、気持ち、気持ちいいっ！　な、何が……ああっ！　ああああ、だっダメですっ！　そ、そんなのダメッ！　た、助けて！　だ、誰かぁぁぁぁぁぁっ！　あおおおおおおおおっっっっ！」

ようやく千鶴のまともな声が聞こえる。その声を聞いてもしばらくは牝のチンポしゃぶりを楽しんだ。

口を離す時、思いっきり先っぽを吸い上げてやった。剝きあげた包皮はしっかりと千鶴の亀頭を覆い直してしまった。それでも、千鶴は四度目の射精を宣言する。

「あああっ、で、出るっ！　で、出ますっ！　ち、千鶴の、千鶴の、お、おちんちんがぁぁぁっ！　だっ、だめぇっ！　あああっ、あおっ、あおっ！　あおっっ！　あおっっ！　あおっっ！」

――びゅるるっ！　びゅくっ！　どぷっ！　どぷっ！　びしゃっ！　びしゃっ！　びしゃっ！

激しい射精で千鶴の顔までべっとりと精液がぶちまけられている。しかし、快楽の表情はそこには無く、恐怖に彩られた表情があった。

「あ、あなたは……何者なんですか？」

「チンポを丸出しにしている女に凄まれても恐くないな。あんたを破滅させるためにやってきた死神かな」

「私にこんなことをしても意味はありませんよ！」

「そうかな？　十分意味はあると思うけれど？」

デジタルカメラのフラッシュが焚かれた。

「や、やめて！　こ、こんなの撮さないでっ！」

「命令するな。あんたには命令する権利は無いんだ」

「ふざけないでっ！」

千鶴は起きあがろうとした。それよりも早く千鶴のペニスを掴んでやった。

「あっ！　ああっ！　や、やめてください……お、おちんちん……触らないでぇ……そ、そんな風に、そんな風に刺激いっ！　だ、だめぇっ！」

ペニスの先端から溢れる精液で亀頭と包皮を滑り合わせるようにしごいてやった。それだけで起きあがろうと腰を浮かせていた千鶴は大人しくなってしまう。

「気持ち、いいか？」

聞いかけには答えない。そっぽを向いて何とか耐えようとするが、それを許すはずもなく、じゅくじゅくと音を立ててペニスをしごいてやった。

「ひっ！　ひいっ！　ダメですっ……おちんちん、ダメですっ……お願いです……そ、そんなに刺激いっ！　あおおおおっっっっ

千鶴を仰向けに寝せ、股を持ち上げぴたりと開き気味のアヌスにペニスを充った。
「ああっ……い、イヤです、そ、そんなの、そんなのぉ……ダメ、ダメですぅ……や、やめて」
「お前みたいなふたなりじゃあこっちでするのが唯一杯だろうが、たっぷり味わうんだなっ！」
——ずぐうっ！
「あああがぁぁぁぁっ！　ふ、太すぎっ、太すぎですぅ……さ、裂け、裂けちゃうっ！　あごぉおおっ！　あおっ！　あああ……ひ、ながるっ、わ、千鶴の、千鶴のぉ……お尻っ、お尻がっ、あおおおっ、おごごおおおおおっっおっっっ！」
それでも俺は気にせず抽送を繰り返した。ぐっしょり濡れていたはずの直腸も、抽送によって乾いてくる。
そんなことも無視し、俺は自分の快楽を続けていた。
「ひいっひいっひいっ、痛いっ痛いのぉっ！　お尻、千鶴のお尻のアナぁっ！　痛いのぉ！」
——ちゃんと濡れてくるし、気持ちよくなるさ」
そして、その通りになった。
「あうっ、あうっ、お、お尻ぃ」
「ケツって言うんだ」
「は、はいい……千鶴のケツ穴、気持ち、良くなってきました……す、凄い、凄いですぅ」
「良く聞いてごらん？　ちーちゃんのケツ穴と俺のチンポでどんな音が聞こえるのかな？」
「あ……え、えっちな、いやらしい音です。ぐっちゅ、ぐっちゅって……ああぁっ！　そ、そんなに、そんなにえぐらないでっ！　ひ、引きずり、引きずり出されちゃうっ！　ち、千鶴のケツ、ケツがっ！　ほ、本当に、本当に、ダメっ！　おぐうっ！　ぬ、抜けたのぉ……千鶴のケツから、チンポがぁ……お尻が、ケツ穴がぁ、ながって、ながってるぅ」
「またチンポつっこんでやるから、ながて見せろ」
「あ……あ……は、は、はいい……ち、千鶴のぉ、こ、このはしたなくて汚らしくてながりきったケツ穴に、ち、チンポを、ね、ねじ込んでくださいい……」
千鶴は自分の尻を持ち上げ、ケツ穴に指を差し込んで左右に広げて見せた。
「可愛い、ケツ奴隷だよ、ちーちゃんは」
——じゅぶっ！
ペニスを突っ込むと脇から腸液が溢れ出た。
そして、一気に抽送を繰り返す。
「あおおおっ！　おっおっおっおっ……ケツっ、ケツがいいのぉっ！　ずぼずぼって、ずぼずぼって、お尻がぁ、ケツがぁっ！　めくれるっ、めくれちゃうっ！　千鶴のお尻、お尻、壊れれちゃうっ！　壊してっ！　あぐぐうっっ、そ、それっ、それがっ、それがいいのっ！　おうっ！　おうっ！　おうっ！　来てるっ、チンポ来てるっ、来てるよっ！　千鶴、射精しちゃうっ、精子、精子出しちゃうっっ！　きゃうっっっ！」
——どっびゅっびゅっ！　ぶびゅるっ、びゅるっ、びゅるっ、びゅるっ！　びゅぐっ！　びゅぐっ！
「まだだ、今度は乳を搾りながらイクんだ」
「あ——ーー、あ——ーー、あああっ、あ、あい……チンポがぁ、チンポがぁぁぁぁぁっ、ケツ、ケツに、ケツで、オマンコ、オマンコ、オマンコも、イッちゃうのぉっ！　あああっあああっ」
千鶴のオマンコからびゅるっ、と汁が飛び散る。潮を吹いて、千鶴はオマンコでもイッてみせたのだ。
「さっさと、母乳を飲みながらイケよな」
俺は空いている千鶴の手にいきなり大きくなっている乳房を持たせる。もちろん、指先は肥大化し、勃起しきった乳首を握らせて、
「あうう……お、おっぱい、おっぱいもぉ、気持ち、気持ちいいのぉ……お、お願い、お願いだから、千鶴の、千鶴の恥ずかしいチンポもしごいて下さいい」
なるほど、膨み通りに気を任わせてやる。
千鶴のを基ペニスの先端を右手で、陰茎で一番太くなっている根を左手で握る。右手は痛まないように優しく皮でもんだりしながらしごいてやる。左手はしっかりと握り、全体的な刺激を与えるのだ。
「ひいっ！　いいのぉっ！　ひ、ひとりより、ずっとずっといいのぉ！　凄い、凄いよ、チンポが、チンポがいいのぉ！　さ、最高ぉ！　ああっ、だ、ダメっ、そ、そんなの、そんなの、やっ、やめてっ、そんなにそんなに刺激したら、あぐうううっ！　あぐうう！　あああああああああっ！　で、出る、出る、また、また出るのぉっ！　チンポ、チンポ来てますっ！」
——じゅびゅるっ！　びゅるっ！
さすがにこれだけ出してしまうと量は減ってきている。それでも、男が出すよりもまい。
「今度こそチンポ汁と母乳を一緒に飲むんだ」
俺は千鶴のチンポをしごき直し、ケツ穴への抽送を激しくする。それこそ、直腸が脱落するほどに。
「あぐうううっっ、ケツっ、ケツがっケツでケツでまた、また、イクのっ！　あああおおおぉぉっ！　ち、チンポ、チンポもっ！　凄い凄いっ！　あおっ、あおっ、あおっ！　出る出るっ！　また出るっ！　ああっ、で、出たっ！　出たったっ！　出たったぁ！　あっ、あっ、あっ、あああっ、まだまだ、ケツが、ケツが熱いっ！　熱いのっ！　も、もっと！　もっとっ！　チンポ、チンポ壊れるっ！　あああっ、汁、汁が、精子があっ、あ、ああ、入ったっ、入ったよおっ、臭いのぉ、千鶴の精子臭いのぉっ、おっぱい、おっぱいもぉ……ああっ、もっともっと、精子、臭いの、味濃いのっ、ああっ出る出る、出るっ、出たっっ！　また出たよぉっ！　あおおおおっあああぐぐうううっ、凄い、も、もおこぉぉっ、し、死ぬ、死んじゃうっ、も、もうしこかないでっ、出る、まだ出るっ出るっチンポ汁、出るうううぐぐわぁぁぁぁぁ！」
千鶴は激しい責めに今までの量を全部合わせたより多い精液を射精した。連続で四回も、五回も、精液を顔面まで飛ばすふたなり千鶴。

ドキッ
ドキッ
ドキッ

俺も千鶴のケツ穴にたっぷり射精した。
もっとも、その頃には千鶴はミルクとザーメンにまみれて、失神してしまっていたのだが。
そうして、御超をたっぷり収めたDVDとデジタルカメラをしまうとぼろぼろでべたべたの千鶴を残して、俺は立ち去った。
しかし、依頼は破棄することにしたのだ。

それから一週間後。
柏木千鶴と彼女の家の例の　　〈公園で真令した。
「あ、あの……ビデオと写真」
「簡単に返すわけにはいかないな。どうだった？　自分がケツを犯され、チンポでイッた映像は？」
千鶴は俯いて唸くむ。
「こいよ」
千鶴を抱き寄せ、千鶴の胸へと指を伸ばしていく。
「あ、ああ……」
俺の指が千鶴の乳首をとらえる。ノーブラにして来いという指示通りだ。揉んで、引っ張ってやる。
「あっ、あっ、ああっ、そ、そんなに、引っ張らないでっ……痛いの、痛いんですっ、痛いっ！　あっ、出てる、出てるう……ミルク、ミルクがあ」
見る間に千鶴の上着が汚れて濡けてくる。白い上着はミルクで濡れ、乳首の在処がはっきりさせた。乳首を引っ張りながら千鶴との散歩が始まった。
「や、やめて、やめて下さい。そんなの……そんなのはダメえ。引っ張らないで、痛くて歩けないっ！　ああ……こねちゃダメッ！　そんな風にしないでえ」
くりくりと指をこね回すと見る間に乳首が勃起してくる。搾乳器を使っていた乳首は、かなりの大きさまで勃起してくる。しかも千鶴には搾乳を禁止した。俺が搾り取るためだ。
「ああああっ、また、また溢れちゃう。溢れちゃう。あっ、あっ、あっ……気持ちいい、ああああっあっ」
びゅるっ、びゅるっと服の中で溢れる母乳。すっかり乳輪までの在処がはっきりするほどに濡れた。
千鶴はぐすぐすと鼻を啜らしてべそをかき出す。
〈公園の真ん中で俺は足を止める。
千鶴の方を向いて、俺はしゃがみ込んだ。
「あっ！　そんな、そんなの……人が、人が見てますっ！　ダメッ、そんなの、そんなこと……そんなことしないでっ！　ああああっ、噛んじゃ、噛んじゃ、ダメえっ！　ああっ、吸わないでっ、吸わないでえ！」
勃起した乳首を甘噛みし、舌でこね回し、吸い上げ、たっぷりと弱り始める。空いている片方の乳首は指で摘み、ミルクを搾ってやる。服の上からでも乳首からびゅーびゅーと母乳が飛び散っていく。しっかり溜まったミルクは甘くもあった。
千鶴のいう通り〈公園には数名の人間がいたが、どれも子供で大したことは無かった。千鶴が心配するようなものは何もない。
だから、しばらく俺は千鶴の乳首を服の上からしゃぶり回し、母乳を吸っていた。
「ああ……ああああっ、あ、あそこが、あそこが、キツイんです。もう、もう……凄く凄く……熱くて」
「あそこって、どこだよ？」
「……あ、あそこ、あそこ……その、お、おちんちん」
「もっといやらしく言え。具体的にな」
「あ、あの……わ、私の、お、おチンポがあ、ああああっああああっ！　そ、その、おチンポ、チンポがあっ！　勃起して……熱く、なって、その、痛いんですう。す、すれて……そのあ、アレに……お、おむつにい」
その言葉を聞いて、乳首から口を離し、再びそれを揉んで、引っ張って歩く。千鶴を連れる場所へ。
「こ、ここ……は、入れませんっ！」
「いいから来いよ」
乳首を引っ張るだけじゃ飽きたらず、乳房を鷲掴みにして千鶴を中へと無理矢理入れた。
〈公衆便所の男子側――千鶴みたいに上品で綺麗な女には絶対に関係の無い場所だ。
「……うっ」
「酸い臭いだろ？　だが、ここが社どもがチンポをむき出しにして排泄する場所なんだ。これからのお前にはおあつらえ向きの場所だと思わないか？」
千鶴は俯いて黙ってしまった。かまうものか、ここからがお楽しみなのだから。
「さて、約束通り見せてもらう。それから、ここからはこいつをしろ」
汚れた床に首輪と鎖を投げ出した。大型犬用の首輪と鎖――千鶴みたいなふたなりにはしっくりだろう。
千鶴はしゃがんでそれを拾う。少しためらってからそれを装着し始める。長い髪を搔き上げ、千鶴は首輪をはめ、鎖を装着し、その手綱を俺に差し出した。
「いいぞ、さあ、見せろ。お前のはしたないものを」
千鶴はしばらく悩む。だが、俺が鎖をぐいっと引っ張ると大人しくスカートをたくし上げた。
スカートの中からは蒸れた空気が溢れてくる。それは、この〈公衆便所よりも臭いのきついものだった。しかし、その臭いは男のものではない。女の臭さだった。
千鶴には「おむつを装着すること」と命じたのだ。それもずーっとだった。脅迫文が届いてから彼女はその命令を忠実に守っていたのは間違いない。
他にも命令として「オナニーするな」とか「風呂に入るな」と命じたが、この臭いやおむつから浮き出たペニスの具合から見れば、それも守っているようだ。
「臭えな。すげー臭いだぜ。ちーちゃんのマンコとチンポは蒸ってんのか？　そのくせ、チンポはギンギンってことか？　そんなにチンポいじって欲しいのか？」
「い、言わないでっ……そんなこと、だって、あなたの言うとおりに……しただけなのに」
「言ってみな、俺が命じたのを。あんたが何をどう

「ゆ――――ん！　ゆ――――――ん！　ゆんゆ！　ゆんゆ様ぁっ――　ゆゆゆゆんっ――　ゆゆんっ――　ゆんゆ！　ゆんゆ様ぁ――　ゆの！　ゆの！　ゆの――……ゆゆゆゆ

外れて
下さい…
お願い…
します…!!
ぎゅ

「あああ……ご、ごめんなさいごめんなさいごめんなさい、そんなこと許してください……搾りますう。ああああああああっ、凄い凄い凄いいっ！　おっぱいから、チンポに一気に来ちゃうっ！　凄いのおっ！　あ、あ、あ、っ！　チンポ、また、また、出るうっ！　出るうっ！　出たっ！　チンポ、イったあっ！　あぐぐぐうううううっ！　おおおおおおおっ！」

——じゅぶっ！　じゅびゅるっ！　びゅるっ！　びゅくんっ！　どく、どくっ、どく、どくっ。

千鶴はとうとう腕を便器に預け、涙で息をするようになっていた。それでも千鶴のチンポから手を離そうとしなかった。まだ、十分に固さはある。

ふと、外を見るとガキどもが俺たちの様子をうかがっていた。それを千鶴に教えてやる。

「あ……あああ……い、いやあ」

「いいじゃねえか、分からせてやろうぜ」

俺は手早く千鶴のおむつを外した。五日も汗を吸い、五日ぶりの精液をふちまけられたおむつは意外なほど重く、べちゃりという無様な音を立てて床に落ちた。

俺はそのおむつを拾い上げて、ガキどもの方に千鶴を向けた。間違いなくガキどもは千鶴の股間に釘ぐとしたペニスが生えていることを見ただろう。

「おーい、ガキども。このねーちゃんはオカマじゃねえからな。ちゃーんと、オマンコもあるからなあ！」

「や、やめ、やめてえ！　あああっ、ああああ、み、見ないで、見ないでえ！　お願い、お願いいい！」

俺は千鶴のチンポを無理矢理持ち上げて、オマンコが見えるようにしてやった。そして、それを指でしっかりとこじ開けてやった。

「分かるかぁ、ガキども！　このおねーちゃんは、ふたなりっていう両方の性別がある変態さんだぁ！」

ガキどもはしばらくこちらを見つめていたが、俺がげらげら笑っていると怖がっていなくなった。

「ちっ、しけてんな。おい、いなくなったぜ。面白くねえからな、この後始末をまずはしろよ」

捨てたおむつにはまるでゼリーか何かのようにこってりとしたザーメンが絡つかっていた。それを千鶴の前に差し出してやった。

「あ……うっ。は、はい……舐めます……ううううっ、あうっ……え、えぐいのぉ。五日ぶりの精子、凄く臭くて……ああ、は、はいちゃんとちゃんと味わいますう……ああうっ。うええっ、こ、濃い、濃い味……うぐうっ、うえっ……はぁ、はぁ、はぁ、むうっ、ちゅうううっ、ちゅるっ、ちゅるっ！　びちゃっ、びちゃっ……ああっ、い、イヤ……イヤっ、や、今、今は……ダメっ、で、出そう……出ちゃいそうなの」

「何だ、自分の精液嗅って興奮したのか？」

「……あ、ああ、そ、そうですう。ち、チンポが、す、凄く、興奮して、あ、味も、濃かったし、その、こ、こんなので……イキたくない……！……だ、だめえっ！　ふ、触れちゃ、触れたらっ！　ああああっ！　あうっ！　あうっ！　ああぐぐうっ！　で、出るっ！　チンポ来たっ！　凄く、凄く駆け上がるっ！」

——どびゅるっ！　どびゅるっ！　どびゅるっ！　びゅるるるっ！　びゅるっびゅるっびゅるっ！

千鶴の精液は高く高く飛び上がった。

見ればまたガキどもが戻ってきている。どうやら千鶴の痴態を見たいのだろう。

気にせず千鶴を責めればいい。ガキどもはコイツを見てマスかきを始めてくれれば、千鶴をさらに辱ることもできるだろう、そう想像する。

「さあ、大好きなケツ穴プレイにいくぜ」

「はぁ、はぁ、ああ……そ、そんなの、そんなの、だめえ……お願い、お願いだから」

「気持ち良くなりたいんだろ？　なりたくないのか？　さっさとケツを出せよ！」

千鶴は怯えている。もうこれ以上の快楽はイヤだ、そう言っている。

「お、お願いですっ、これ以上、これ以上しないで……もぉ、もぉ、まともじゃ、まともじゃいられなくなるんですっ！」

「まともで、いられないようにしてやるよ」

千鶴の頭を無理矢理押さえつける。千鶴の顔が便器にくっつくほどに押さえ込んでやる。

そして、千鶴のアヌスに指を差し込んでやった。

「あぐぐぐうううっ！　あうっ！　あうっ！　あうっ！　ぐぐぐぐうううっ！　け、ケツっ！　ケツがぁ、ケツがぁ！　ひ、広がるうっ！　そ、そんなに、そんなに広げないでえっ！　あこぉおおっ！」

容赦なく指三本が差し込まれる。そして、それで開いたり閉じたりしながら千鶴の尻を刺激しまくった。

「おここここぉおおおっ！　で、出るっ、き、き、来てるっ！　チンポに、来てるっ！　だ、ダメッ、ダメエっ、もう、もう来ちゃうっ！　き、来たっ来たのおっ！　い、イクうっ、イクイクッ！　来る、チンポ来たっ！　あああああこここここここぉおおおっ！」

——びゅしゃっ！　びゅしゃっ！　びゅしゃっ！

そうして射精を迎えさせる。だが、まだ手を休めない。そのまま手を回転させて肛門をえぐっていく。

「いぎぎぎいいいっ！　うこここぉおっ！　あああああああああああああっ！　あふぅうっ！　あふふふぅうっ！　あふぅうっ！　あたあああああっ！」

千鶴の様子が少し変わった。どうやら本当に壊れた——幼児退行——ようだ。この刺激のせいで、しばらくガキになっている時間は長くなるかも知れない。

それはそれで面白い。快楽にどん欲になるのも

俺は千鶴の片足を取る。そうしてオマンコが丸見えになるようにして、ケツ穴を開るのだ。

——ずじゃっずじゃっじゅっじゅっ！

腸液が溢れる。あの調教は十分に効果があったようだ。しっかりとケツは準備のようにぬめっていた。

あうっ！
あぐぐっ!!
チッチポ
来たあぁ!!
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

ホルモンが出てきてしまうのだ。

「ぎゃーーー！　ぎゃーーー！　ぎゃーーーーー……ぎぎぎー」

キョウヤは頭を抱えながら、ベッドの上でのたうち回っていた。ホントに、今回はヤバイ。ヤバイ。ヤバイ。ヤバイ。ヤバイ……。

——ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー……。

——ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー……ちょっとー。

キョウヤは、ベッドの上でのたうち回っていた。

——ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー。

——ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー。

——ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー　ちょっとー。

キョウヤは、ベッドの上でのたうち回っていた。

「ぎゃーーー！　ぎゃーーー！　ぎゃーーーーー……ぎぎぎー」

キョウヤは頭を抱えながら、ベッドの上でのたうち回っていた。ホントに、今回はヤバイ。ヤバイ。ヤバイ。ヤバイ。ヤバイ……

はじめまして。武藤礼恵（ムトウ・レイ）です。今回はみさくらさんに誘われたのか、私から言い出したのか忘れちまいましたが、4鶴ふたなり小説を書きました。まぁ～下品な内容で、ファンの方の顔と下半身に血流が集まっているコトと思いますが、落ち着いて1つ やって下さい。ウソです。大変失礼しました。わびさせて。

えーと。CAGEというメーカーブランドで「檻の中のわたし」ゲームのシナリオをしました。是非買ってふたなり娘に萌えテキスト書いていにでお楽しみ

んでは、またお会しましょう

2000年7月31日

※「高慢少女はみんなハミル」の神様「ピロンくん」にしイプられるスティーたん♥の図

と…撮られてる…
有情してるとこ
撮られちゃってるよぉ!!
パシャ
パシャ
ボイス
アウト
※ハガレイです

AntiChrist TrickSter
おへ…
きもちいい
☆志保様情報
ミルクが出る。
あ♡
あ…
あ…

AntiChristTrickSter AntiChristTrickSter AntiChristTrickSter

ハハハ
まだ母様は生きてるんだ
イヤッ!!
ビュビュビュ
ビュビュビュ
もう アクニ
また また
ぱいパルク
でてきうよォ

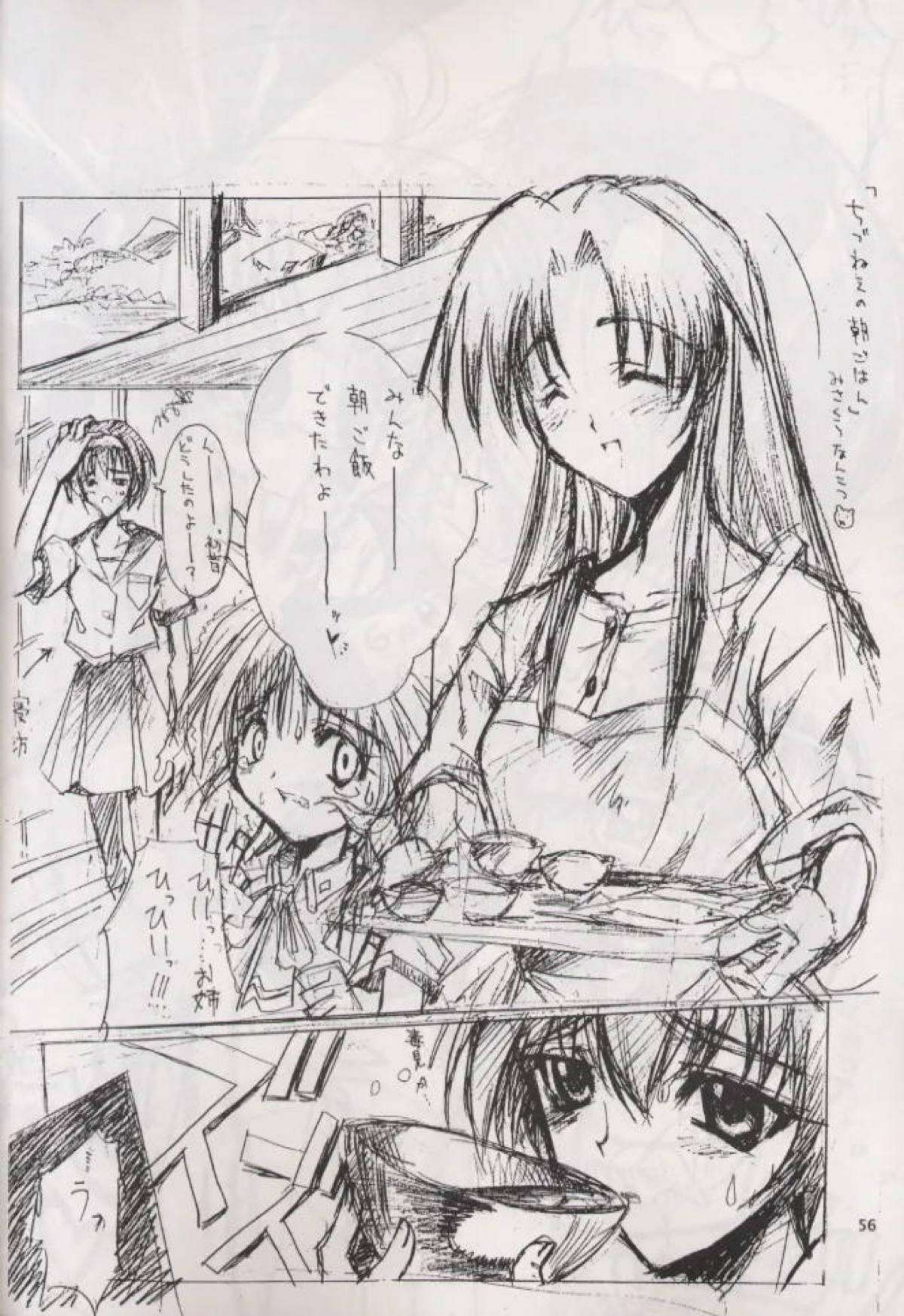
しっ…しずかにするのよ!!
はっ はやくっ
はやくっ
■み、みずきっちにまで……
そりゃあしゃぶるっちゃーのッ。
……ウーッ!!?

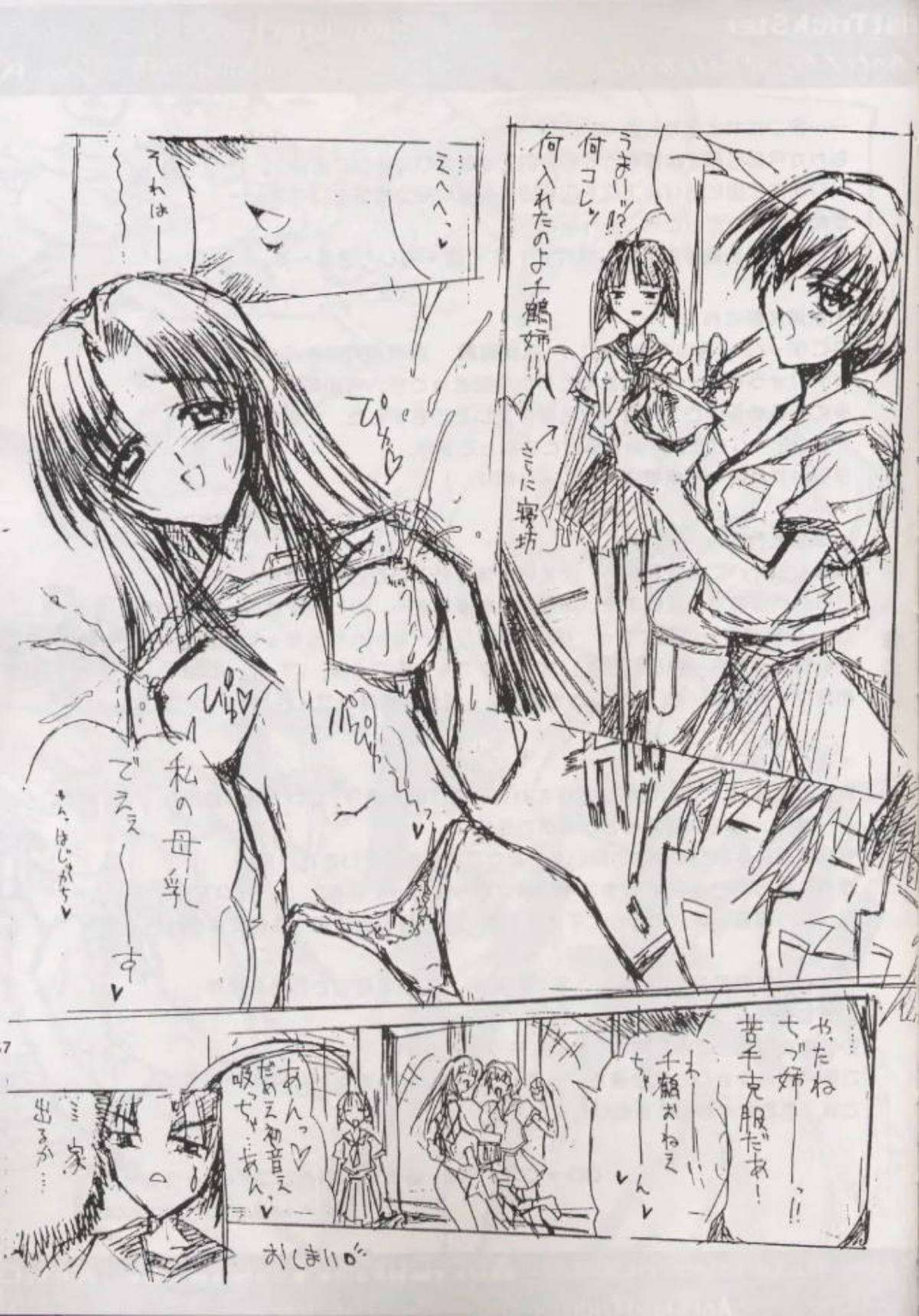
AntiChrist TrickSter

■柳川×阿部考いたからね！
リクエスト完了～ピーよ！？
ヤクゲキチガイロンゲさん～

ドキッ
ドキッ
ドキッ

4の2
2000/11/30
MIYUKI
STUDIO HONEYBLADEも


「ナデナデの朝ごはん」
みさいなとこ
みんな――
朝ご飯
できたわよ――ッ
――朝
どうしたの――？
ひっ
ひっ
ひっ
お姉
ぃ!!!
ぅ


うまいーッ!?
何コレッ
何入れたのよ千鶴姉!!
さてと寝坊
ぴゅ♡
ぴゅ♡
えへへ
それは——
私の母乳です
きゃ、はじかれちゃ
わたねっ
ちゃ姉——!!
苦手克服だぁ!
わ——!!
千鶴おねえちゃ——ん
あんっ♡
だめえ音立て吸っちゃ…あん
家出ろ…
おしまいっ

……おつかれさまでした～
なんか今回も好き放題書けて自分的には幸せいっぱいです☆
HPの方に出てたリクエストにも出来る限り応えたつもりです……
反映されてなかったらごめんなさ～い。
そして今回も豪華なゲスト様方が！ご・紹・介いっきま～す。

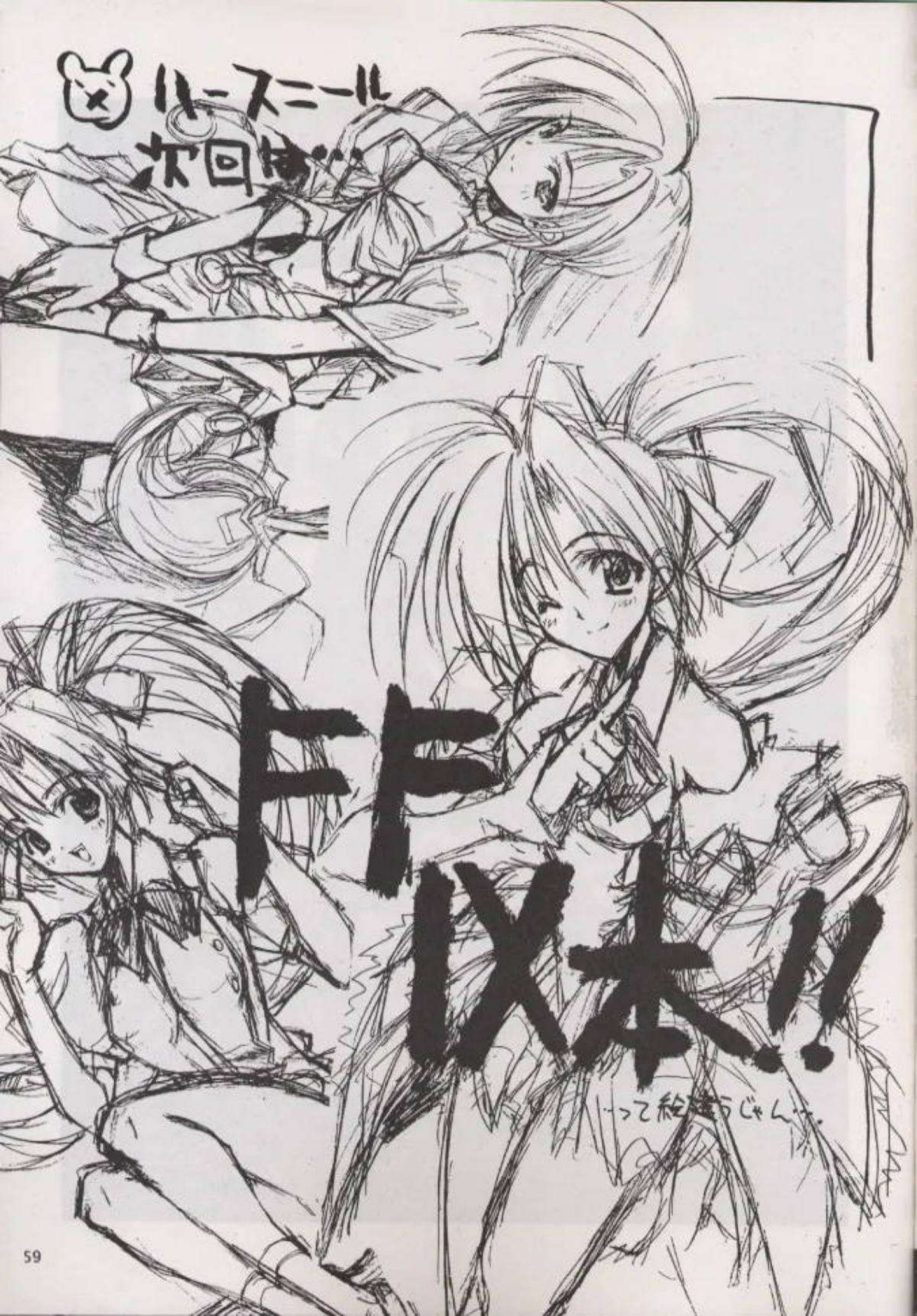
・武藤礼恵さん
PCゲーム「檻の中のわたし」も絶好調、同時進行でたくさんの
シナリオライティングをされてる小説家さんです、今回超々
多忙を極める中とスケジュブツを挙げていただきました、大感謝！
FF9ゲームでも御一緒することになってます、
お互いがんばって時間空けましょ（笑）！！

・深雪さん
「スタジオハニーブレイド」でも御一緒させていただいてます
こっちの世界で一番付き合いの長いお友達です～。ロリータです。
う、ロリパワー炸裂ですっ（笑）！スフィーちゃんちっちゃ～☆
これ終わったら一緒に遊びましょ～！！プール行こうよ、プール（笑）
市民プール～～～そしたらスク水スフィー発見&視姦でゴーだ！！

・山田タヒチさん
皆さんご存じ、エロの際を爆走されてる百の顔を持つ（笑）漫画家さん
……はい、自分のお師匠さんなのです。
今回無理を承知で原稿のお願いをしたところ快諾していただいて
超嬉しかったです、しかもスケジュ事になっちゃってます、レベル4スフィー！
あ～もう最高っす、山田タヒチのふたなり絵なんてそうそうは見れませんぜ！？

てなわけで今回も「ぼかあ、幸せだなあ！」って感じでございます
あ～もう同人、楽しいよ～～！！
自分も次回までにはさらなるレベルアップを図って
ご期待に応えたいと思います、よろしくお願いしますです～～
では！また次の作品でお会いしましょ！

00・07・31 みさくらなんこつ（ハースニール）
www.harthnir.com


ルースニール
次回は…
FF
次は!!
って絵描きじゃん!!

初版： 2000年8月13日
発行：ハースニール/みさくらなんこつ
連絡先：東京都練馬区旭丘2-9-8-103
川名方ハースニール
mkwn@pop06.odn.ne.jp

印刷：二モ印刷

※18歳未満の購入、所持、閲覧を禁じます
※無断複製、転載厳禁

毎々是勉強

100in1

モザイクが取れた！

きばるべ～！

4

0

.5

bisyoujy

WWW.HARTHNIR.COM